

主題名 風習・迷信について考えよう

教材名 風習・迷信

人権学習の視点 普遍的な視点「差別の構造」

主題・教材について

同和問題をはじめ様々な人権問題が生じている背景として、「人々の中に見られる同質性・均一性を重視しがちな性向や非合理的な因習的意識の存在」が挙げられている。また、「物事を合理的に判断して行動する心構えや習慣が身に付いておらず、差別意識や偏見にとらわれた言動をする」といった問題点も指摘されている。

伝統や慣習の中には、素晴らしい生活の知恵や今後も伝えていくべきものも多いが、風習や迷信で「昔から」「みんなが」と言って深く考えずに行動し、人に強制したり、非難することで「人を傷付けたり、差別につながる」ことがあることに気付かせたい。そして、自分の考えで物事を正しく判断することの大切さを学ばせたい。



ねらい

- 風習や迷信を何の疑いもなく受け入れて、それを人に強制することや、信じていないからと非難することが、人を傷付けたり差別したりすることにつながるということを理解する。
- 世間や周囲の人に流されることなく、自分でよく考えて物事を正しく判断しようとする態度を養う。

本時の展開

過程	指導内容	形態	主な学習活動	指導上の留意点	教材・教具
導入	○「風習・迷信」について興味を持たせる。	一斉	○「風習・迷信」について関心を持つ。	○事前にワークシートを配布して、記入させてくる。 ※事前にワークシートを渡すとき、昔から、こういう時にはこうするものだなどという「風習・迷信」について学習することを伝える。	ワークシート (調べる学習用)
展	<b>「風習」や「迷信」にはどのようなものがあるのだろうか。</b>				
	○「風習・迷信」には様々なものがあり、科学的根拠のないものが多いことを理解させる。	進め方① グループ	①グループで、各自が調べてきた「風習」や「迷信」を出し合っ、画用紙にまとめ、グループごとに意見を発表する。(画用紙は掲示する)	※①②のどちらの方法をとってもよい。 ○できるだけそうしている理由やそれをどのようにして知ったのかなども交流(発表)させる。	進め方① 画用紙、マジック
開	<b>「風習・迷信」について考えてみよう。</b>				
	○「昔からそうしているから」と言って、根拠なく行動していることがあることを理解させる。	一斉	○なぜ六曜にこだわるのかについて考え、意見を交流する。	○社会には、「昔から」「みんなが」やっていることにこだわって、人を非難する(傷付ける、差別する)ことがあることを明確に伝える。	資料集P.38
<b>人を傷付けたり、差別につながる場面とは、どんな時だろう。</b>					
		一斉	○P.38を参考にして、風習にとらわれて人を傷付けてしまう場面を考える。	○「～なのに」と、人を非難するような場面を想定させる。	ワークシート 項目②

	○「風習や迷信」にしばられて、人を差別したり、傷付けてしまう場合があることを理解させる。		○P.39の「こんなことってホント？」の例を読み、実際どのようなことがあるのかを知る。	○六曜、丙午迷信、女人禁制などの非科学性を理解させる。 ○現在では、カレンダーに六曜を記入しないなど、見直されつつあることもおさえる。 (例) 仏滅の日の結婚式も多くなっている。 (例) カレンダーに六曜を記入しない運動もある。など	
	<b>これから自分はどのように行動すべきかを考えよう。</b>				
まとめ	○根拠のない排斥や押しつけを許さず、自分自身の考えや判断で行動することの大切さを、学習を振り返る中で、まとめさせる。	個別一斉	○他人の意見や行動につられるのではなく、正しい知識や科学的な根拠に基づいて、多くの情報の中から正しいものを見分け、自分自身の考えや判断で行動することの大切さとそれが差別をなくすことにつながることを理解する。	○これからの自分の生き方と照らし合わせ、不確かな周囲の意見や行動に惑わされることなく、自分の考えや生き方を主張できる強さを持つことの大切さを訴えたい。 ○「風習や迷信」は、人に強制したり、そのことで、非難したり差別したりしてはいけないことをおさえる。	ワークシート項目③

### 評価

- 風習や迷信を何の疑いもなく受け入れて、それを人に強制することや、信じていないからと非難することが、人を傷付けたりすることにつながることを理解することができたか。
- 世間や周囲の人に流されることなく、自分でよく考えて物事を正しく判断しようとする態度を養うことができたか。

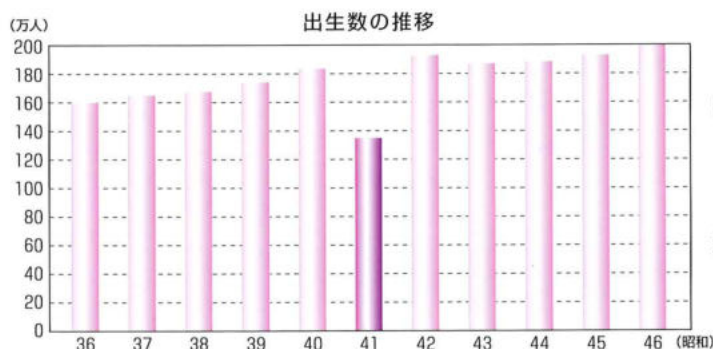
### 〈参考資料〉

#### ①「六曜」について

- 陰陽道の規則により決められている暦の一つ。1年365日の全てに6つの暦が割り当てられており、その一つ一つに意味があるとされた。ここから、「葬式は友引を避ける」「結婚式は仏滅を避け大安に」など暦にこだわった風習が生まれた。しかし、これは迷信であり科学的根拠は全くない。

#### ②「丙午迷信」について

- 江戸時代の浄瑠璃に丙午生まれの「八百屋お七」という女性があり、気性が激しく精力旺盛で男を滅ぼすと盛んに語られた。このことから、丙午生まれの女性は、気性が激しいと言われるようになったと伝えられた。このことは迷信であり、科学的根拠は何もない。



昭和41年、丙午の年の出生数が激減している。これは、人々が丙午の迷信に囚われた結果といえる。しかし、迷信に言われているような事実は全くなく、迷信に囚われ特定の年の人口が急減するようなことが繰り返されないように指導したい。

出所 厚生労働省大臣官房統計情報部「平成19年人口動態統計月報年計(概数)の概況」より